

2022年10月23日
世界宣教の日・献金

キリストの弟子であるわたしたちにとって、キリストを伝えることである宣教は皆に与えられている使命です。「改宗を迫るのではなく…具体的な生活を通して主キリストをあかしする」(2022教皇メッセージより)

地域に出掛けていき教会のすばらしい姿を伝える、そのような宣教活動を心にとめたいものです。

○2022年「世界宣教の日」教皇メッセージ(全文)

○教皇庁宣教事業のサイト(国外では「ミッシオ」(Missio)とも呼ばれています)



※それぞれ、QRコードよりご覧になれます。

福岡教区宣教司牧評議会

福岡教区の宣教司牧を推進し、また、教区のすべての共同体の一致を深めていくために、福岡教区宣教司牧評議会を立ち上げます。皆さんの理解と協力に心から感謝します。

宣教司牧評議会の目的と使命は、その規約に明記されています。第二バチカン公会議で示された教会を実現しています。

毎年10月、「世界宣教の日」にフランシスコ教皇はメッセージを発表します。今年は「使徒たちの宣教」1章8節の「わたしの証人になるように」というイエスの言葉を引用しながら、すべてのカトリック信者に福音宣教の使命をしっかりと受け止めるよう呼びかけています。メッセージの最後には「教会が宣教に励む教会になり、キリスト者のすべての共同体が福音宣教の決意を新たにすることを切望しています」とあります。

福岡教区は、教皇様の呼びかけに耳を傾け具体的に応えたいと思います。復活祭に発表された「宣教司牧方針」がそのための道具になれば嬉しく思います。

「あなたがたはわたしの証人となる」

福音宣教月間に寄せる願い

福岡教区長 ヨゼフ・アベイヤ司教

加リッリ
福岡教区報

ヨゼフ アベイヤ司教認可
発行所 福岡司教本部
福岡市中央区浄水通6-28
発行人
カトリック福岡司教区
編集人 山元 真
TEL 092-522-4059
FAX 092-523-2152
振替口座 01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価 1部70円

きと素直に受け止めながら、教区の現状を振り返り、現在においてどのようにイエスが示された道を歩むべきかを識別し、そのために必要なことを決めます。宣教司牧評議会に派遣される各地区の代表者は、それぞれの歩みを報告し、また、各地区へ教区の方針や決意を伝える任務を担っています。教区としての一歩を深める大切な場になります。

従って、各地区の代表者は評議会への参加を優先しなければなりません。他の活動団体やグループ活動も大いに続けてほしいと思いますが、教区で中心になるのは宣教司牧評議会です。

各地区の宣教司牧評議会

各地区にも宣教司牧評議会の立ち上げが必要です。もう既に存在している地区もあります。地区でも宣教司牧評議会が中心となつて、ともに歩むことになります。信徒、修道者、司祭は共に集い、地区の現状を振り返り、他の地区とのつながりを大事にしなが、地区の歩みを支えていくために話し合い、必要な事柄を決めます。地区でも、各小教区や委員会の代表者は、地区の宣教司牧評議会への参加を優先していただきたいと思っています。また、他の団体やグループ等での活動は各地区で続けていただければ幸いです。一人ひとりの信仰を深め、

教区報で教区の五つの委員会が紹介されました。宣教司牧評議会の最初の集まりは2023年1月に予定しています。その後、各委員会の活動を充実させていくことになり、皆さんのご協力をお願いします。

希望を持って、福音宣教の月間を過ごしましょう。

ヨゼフ・アベイヤ

教区の委員会

福音宣教を推進していくための大切な働きだからです。

10月の意向

【教皇の意向】すべての人に開かれた教会

【日本の教会】医療従事者

教皇様の意向のために祈りましょう

新築された小倉教会（北九州市小倉北区 主任・深堀勝人神父）の新聖堂献堂祝別式が、8月15日（月）、同教会の保護聖人、被昇天の聖母の祭日に盛大に行われた。昨年8月、旧聖堂の解体に続いて、同地に着工し、この日を迎えた。当日は晴天に恵まれ、午後2時、オルガン奏楽の中を、北九州地区の司祭、歴代の主任・助任司祭、同教会出身司祭など17人の司祭、そしてヨ



小倉教会 献堂祝別式

わたしの家は、すべての民の祈りの家と呼ばれる
(マルコ11:17)

ゼフ・アベイヤ司教が入堂して式が始まりました。コロナ禍で人数制限が敷かれる中、小倉教会の信徒、北九州地区各小教区の代表など200人が、また新聖堂に入りきれなかった信徒は信徒会館での動画配信で式に参列した。

司教は説教で、「新聖堂が、互いに与えられた恵みを分かち合いながら、信仰を養い、多くの人を温かく迎える場になるように」と論じた。続いて祝別式に移り、まずキリストの象徴である祭壇に、ついで聖堂の柱に、それぞれ聖香油が塗油された。引き続き、新しい神の家、神の民の家ではじめてのミサがささげられ、参列者一同心をひとつにして、すべてを導かれた神に賛美と感謝をささげ、これからの歩みの

時の話題

難民移住移動者の日 (9月最終日曜日)を迎えて

「必要なのはただ、純粋に、単純に、民になりたいという望み、……不断に根気強く働きたいという、無欲な望みです。」(教皇フランシスコ 回廊「兄弟の皆さん」77)

私は外国人技能実習生や留学生の相談を受ける活動や、長崎県の大村入国管理センター収容者との面談活動を通じて、活動を通して、「何よりも大切なのは一人の人間の命、人間の尊厳」

現在、大勢の外国人技能実習生が日本で働いています。ベトナム人が多く、カトリック教会でも多数ミサに参加しています。人間としての尊厳を大切にされず、即戦力として安価な労働力のように扱われている実習生が多いです。コロナ禍の影響もあって、教会内外から実習生の相談が続いています。彼らの相談を聞き取るために、ベトナム人信者の方が通訳をしてくれて感謝です。

また大村入管面談活動では、今年3月1日、6年以上大村入管に収容されていたベトナム人収容者グエン・バン・フンさんに在留特別許可が下りました。私が彼に面会をするようになって3年になります。ポートピアブルとして1989年に日本に来たフンさんはカトリック信者です。福岡教区でも多くの方が賛同し、署名してくれたお陰です。フンさんは大村で元気に生活しています。

教会の枠を超えて社会と繋がり、出会いと交わりに感謝して、主の福音を探し、祈りのうちに歩みたいと思っています。

社会福音化委員会
難民移住移動者部
黒崎教会 有吉和子

新聖堂は、延べ床面積2020㎡、聖堂床面積471㎡、信徒席数162、216である。耐震・耐火基準に準い、聖堂外のトイレと倉庫が建て替えられた。「後世の信徒に負担を残さない」の理念と建設資金の両立を図った結果、2階建ての旧聖堂に代わって1階建てとなり、収容人数は半分ほどに減ったが、「身の丈に合った

上にさらなる祝福を願い、宣教への決意を新たにしたい。新聖堂建設の歩みは15年前、当時の信徒会長・故武田晴行氏の提案に始まる。途中、聖堂建て替えの必要と建設資金積み立てをめぐる様々な意見の一致を見ず、建設検討委員会が二度立ち上げられるなど、紆余曲折を経験した。現運営委員会会長の内藤正氏は、「様々な意見の相違による作業の遅延、労務費・建築資材の高騰や、設計の見直しによる新たな献金の呼びかけなど数々の困難に直面しましたが、これらすべてが完成にいたるまでに必要なことでした」と語る。

一カトリック小倉教会

小倉の宣教は、1887年（明治20年）、『ラゲ訳新約聖書』で有名なエミール・ラゲ神父（パリ外国宣教会）によって始められた。そして1890年、有安秀之進神父が現在地に借家を得て定住し宣教。1900年、最初の聖堂を建立した。その後の建て替えなどを経て、戦時下に倒壊したが、戦後、徳山登（トクベフ）神父（パリ外国宣教会）が赴任して、1958年に再建した。

小倉教会では、年間を通じて北九州地区諸教会の諸行事や集会、その他が行われている。現在小倉教会の在籍信徒数は2,146人（2021年現勢報告より）

聖堂」と信徒たちは言う。小倉教会女性の会長野口美津江氏は、「教会とすぐわかるよう、三角屋根の教会らしい外観にこだわりました。『街のシンボル』となるよう、外観だけでなく、老若男女全員で信仰を証し歩みたい」と喜びと決意を語った。

※献堂式の模様は、下記QRコードから視聴できます。

みちくさ

全国各地の城に築かれた石垣を見てまわるのが人気のようだ。あるテレビ番組で、戦国時代からの職人の系譜を継ぐ現代の石工が、ここに積んでほしい！と、言う石の声を聴きながら、設計図なしに一つひとつ積み上げると話すのを聞いた。確かに、城壁は石工たちが精魂込めて積み上げた芸術作品のように見える。石垣以外にも様々な石積み、建造物を見ることができ、教会もその一つだろう。

▲アシジの聖フランシスコの半生を描いたイタリヤ・イギリス合作映画で、1972年に公開された『ブラザー・サン・シスター・ムーン』の挿入歌に「ザ・リトル・チャーチ」がある。フランシスコが、野原に建つ小さな壊れかけた石造りの教会を、一つひとつ石を積み上げて再建する場面に挿入されている。英語歌詞の一部を訳すと、「いちにち、また、いちにち、石をひとつ、また、ひとつ、あなたの秘めた想いをゆっくり築きなさい」とある。友人は、ある仕事の進行に行き詰まっていた時に偶然この歌に出会った。そして、「作業の一つひとつがあの石で、ゆっくりでいいから積み上げるよと励まされているように、ずっと心に響いてきます」と語った。歌は、「いちにち、また、いちにち、あなたも成長し、天の栄光がわかるようになるでしょう」で終わる。▲語りかける石と聞いて、「主は尊い生きた石」（ペトロの手紙一2章4節）という言葉が響いてきた。生きていくキリストの心に聴き従い、ゆっくりと確かに信仰を積み上げ、救いの道を歩むことができる人生を与えられていることに感謝したい。(G)

第二回 司祭評議会

7月26日、大名町教会1階ホールにて今年度二回目の司祭評議会が開かれた。

今春発表された「宣教司牧方針」に従って福岡教区の組織の見直しが行われているが、司祭評議会の新会則に基づいて各地区から評議員が推薦され、職務上3人と司教推薦の7人を含め、23人の新しい司祭評議員が発表され、併せて教区5地区の地区長司祭も公表された(8月2日付け教区HP参照)。また、司教顧問会のメンバーも、8月10日付けで発表された(8月17日付け教区HP参照)。



新しい評議員での評議員会は10月4日に開催される。福岡教区司教顧問会と福岡教区司祭評議会は司教の諮問機関であり、この会合において教区内のさまざまな課題等につ

いて、司教からの諮問に応えていくことになる。なお議題決定については、評議員司祭や地区長司祭からの提案も考慮される。今回の評議会のために教区創立100周年について各地区で検討し意見を持ち寄ることが求められている。教区宣教司牧評議会は来年1月発足を目指して準備が進められているが、司祭評議会として「教区宣教司牧評議会規約」が承認された。



死囚囚えん罪について語る 古川住職

2022カトリック平和旬間 平和のために働く決意を新たに

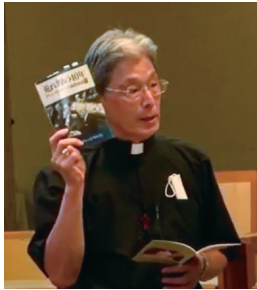
題評議会を中心に、資産の運用などについて引き続き検討されるが、信徒の皆さんに対して求められる。

福岡地区 信徒使徒職協議会

8月11日(山の日)、カテドラル大名町教会で、2022年日本カトリック平和旬間賛同企画「平和を祈る集い」(主催・福岡地区信徒使徒職協議会、共催・社会福音ネットワーク福岡)が、昨年同様、コロナ禍での人数制限と共に、YouTubeライブ配信の併用で開催された。テーマは、あなたがたに平和があるように。今年は午前第一部「死囚囚えん罪勉強会」(講師・古川龍樹住職 生命山シユバイツァー寺)、「3・11あの日、あの時プロジェクトパネル展」(被爆マリア像と共に平和を願う祈りの会)そして午後の第二部に講演会「平和を求め、追い求めよ」(講師・森山信三三分司教)、「第三部インターナショナルミサ(アベイヤ司教主司式)」の三部構成で、信徒、教区内外の修道者と司祭(長崎教区からも1人の司祭)延べ人数330人が参加した。

(YouTube 視聴回数は当日夕方迄で330回を超える)

第一部の古川住職の勉強会は満席で、アベイヤ司教や数名の司祭も話に耳を傾けていた。また大聖堂には、長崎の浦上教会より特別に貸し出された「被爆マリア像」のパネル写真が安置されており、参加者は沈黙のうちに祈り、最後は聖パウロ修道会のBr.阿部光一とテゼの祈りを唱えた。



行動を促す森山司教

第二部の講演会では、森山司教が、ヨハネ23世教皇の回勅「パチエム・イン・テリス」をはじめ、回勅、メッセージ、書籍、冊子を紹介しながら、平和への道は正義の実践である」と熱く語った。

第三部のインターナショナルミサは、アベイヤ司教主司式、森山司教他15人の教区内外の司祭の共同司式で行われた。アベイヤ司教は説教で、

「キリストの平和であなただけ支配されるような心を開き、平和のために働く決意をしましょう」と述べた。

ロシアによるウクライナ侵攻など、世界には平和でない中での生活を強いられている人々が沢山いる。祈りと共に行動することの大切さをあらためて感じた集いであった。なお、福岡教区では、来年度の平和旬間に向け、教区全体で取り組む企画の検討を進めることにしている。

※この模様は、下記QRコードから視聴できます。



北九州地区 信徒使徒職協議会

北九州地区信徒使徒職協議会が例年開催する「平和を祈る集い」は、今年もコロナ禍を憂慮し中止したが、「平和のために何かできることは」との想いから、同じ日に祈りを捧げることを決めた。

そして8月14日(日)、北九州地区の全教会(飯塚・黒崎・小倉・田川・新田原・天神町・戸畑・門司・直方・水巻・湯川・行橋・豊津・若松)ではミサ中に、「アシジの聖フランシスコの「平和を求める祈り」が唱えられ、平和への誓いを新たにした。

熊本地区・山鹿教会

8月8日(月)朝ミサ後、ウクライナの平和に向けたフランシスコ教皇の祈りを捧げ、主任司祭のダ・ロイト・シルバノ神父より、同教皇の「世界平和の日」メッセージと、現在世界で起こっている40以上の戦争・紛争の説明があり、その後、戦争・平和の体験や意見を分かち合った。朝鮮・清津市で幼少期を過ごしたFさんは、ソ連軍の占領で故郷を追われた記憶から「戦争は女性・子どもが犠牲になる」と、ウクライナの現状に自身の想いを重ねた。Yさんは満州での幼い頃の

思い出を短歌で説明。母親が終戦間近に亡くなったこと、敗戦翌日の八路軍による家あらしを祖母が仁王立ちで追い払った話、父親が銃殺刑になるも急所をまぬがれ生き残れた話、そして近所の人々の援助による引き揚げを語った。シルバノ神父は両親の戦争体験を語った。母国イタリアの、フランス・ドイツ・ポーランドに至る地続きの国ゆえの壮大で混沌とした話は、島国日本では想像し難いもの

福岡教区常設委員会の紹介 ③ 青少年委員会・広報委員会

今年度、福岡教区常設委員会は5つに再編成され、7月号より各委員会を紹介してきました。福岡教区ハンドブック2022(参照)。

最後に青少年委員会と広報委員会を紹介します。

青少年委員会

委員長 十時伸治神父

青少年の様々な活動を推進する委員会である。三つの部門によって構成される。また、各地区で青少年活動を担当する司祭も委員会のメンバーになる。

(1) 青年部門

青年たちの活動を支える。

また、「福岡教区青年センター」の設立の準備を担当し、センターを運営する。

(2) 中高生・教会学校部門

その活動を支え、また、教区のFYCCを担当する。

教会学校のリーダーの養成を企画し、行う。

(3) 召命推進部門

司祭職や修道生活への召し出しを推進し、そのための具体的な活動を企画する。

広報委員会

委員長 山元眞神父

教区の広報活動を担当し、

だった。そして、「平和は戦争と戦争の間に争いのないことではなく『主の平和』であり、それは真の人間の世界。真の人間とはイエス、そしてイエスのように生きようとする人」と語り、皆その言葉に心を一つにした。

最後に分かち合いの継続を誓い、アシジの聖フランシスコの「平和の祈り」を唱え、閉会。それぞれが平和の想いを持って教会を後にした。

報告 信徒会長 森田貴博

計報

セバスチアノ堤 好治神父

(長崎大司教区司祭)



8月19日帰天。享年86。

1935年8月20日和歌山市生まれ。1963年3月、大阪・玉造教会にて司祭叙階。

叙階後は大阪教区で助任として司牧後、1971年4月より長崎大司教区で司牧。

2009年4月からは福岡教区・呼子教会主任司祭として司牧し、2017年2月に引退。引退後は長崎の聖マルコ園で療養されていた。

マリア 永富 邦子 修道女 (シトー会 伊万里の聖母修道院) 7月27日帰天。享年86。修道生活62年でした。

不動産全般/売買・賃貸・管理
なんでもお問い合わせください

(株)ジャパン・スマイルか

代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子
〒810-0044 福岡市中央区六本松4丁目9番4号
TEL 092-761-8800
http://www.iruka-japan.com/

総合建築業

- 一般住宅(新築・改築工事)
- 鉄骨工事
- R/C工事

建築の事なら何でもお気軽にご相談ください

有限会社 **森山工務店**

ヨゼフ 森山新太郎

福岡市早良区四箇1丁目15番28号
☎ (092) 811-7265

人と人の絆を大切に・ご葬儀のご相談は

メモリーロード赤一丸

薬院・油山・野芥・小田部・今宿
馬出・南福岡・大野城・飯塚

市民葬儀・法事相談センター
六本松店・赤坂店 福岡メモリーロード(橋本)

☎ 0120-45-1616

別れ・出逢い・旅立ち

草苑 (SOUEN)

カトリックのご葬儀
互助会制度もご利用できます。

木下株式会社

TEL 092-526-5656
〒810-0016
福岡市中央区平和3丁目1-5

知りたい！
福岡教区内の
修道会
宣教会⑥

福岡教区には現在 30 の修道会・宣教会から司祭・修道士・修道女が派遣され、それぞれのカリスマで働いておられます。
今春より紹介している、その修道会や宣教会。第6回は、コングレガシオン・ド・ノートルダム修道会です。

コングレガシオン・ド・ノートルダム
修道会

私どもコングレガシオン・ド・ノートルダム修道会（以下C.N.D.）は、ご訪問と聖霊降臨の精神を生きた聖母マリアに倣う女性の集まりです。創立者聖マルグリット・ブルジョワは、1620年にフランスのトロワで生まれました。祈りと熟慮の末、1653年にカナダへ渡り、1700年に天に召されるまでカナダでの教育活動に献身しました。1678年には念願の女子修道会一必要とされることへはどこにでも出向くことができる禁域のない修道会一を教会の認可のもとに創立しました。以来、会員は教育をとおして神と人々の奉仕に身を捧げる生活を送っています。

聖マルグリット・ブルジョワ像
(明治学園小学校前)



1948年、明治学園理事長安川寛氏は学園移管を進めていました。これを耳にしたパリミッシン会の神父様方は、北九州市にぜひカトリック校をとの熱望のもとに東西奔走し、ついに念願を叶えることができました。それに伴い4人のシスターが戸畑に着任したのは1949年のことでした。以後、安川敬一郎氏の気高い創立の趣旨を継承し、学園の教育をさせていただいています。

C.N.D. 共通の教育理念は「まことの自由への教育」ですが、それを教育の場で具現化し「神の愛を知り、人々のための人になる青少年」の育成に寄与できるなら、望外の喜びです。

来日90周年にあたる今年、創立者の「私たちは教会の娘」という強い望みを新たにし、福岡教区の皆さまと共に歩んで行きたいと思ひます。
C.N.D. 仙水町修道院長 Sr. 吉田ツギヨ

7月30日（土）から31日（日）にかけて、行橋・豊津教会（主任・下町豊重神父）の教会学校が、世界遺産・天草津集落を中心に巡礼キャンプを行った。



天草四郎と同じポーズで！

初日は台風を追いかける状況の中で、マイクロスコープは津津へと急いだ。途中、三角休憩所で弁当を食べ、待ちに待った天草のイルカウォッチングを行った。



シルバノ神父の講話を聴く子どもたち

熊本地区宣教師司牧評議会主催による「子どもたちのため

熊本地区
サマーキャンプ

報告 教会学校リーダー 緒方和美

の「サマーキャンプ」が8月1日（月）、健康教会を主会場として開催された。参加者は県内7小教区から合計29人。午前10時集合後、オリエンテーションでは子どもたちに続き保護者、支援者も全員自己紹介。その後、ダ・ロイト・シルバノ神父（菊池・山鹿教会主任）による七つの質問「何を、どこで、いつ、誰が、どういう風に、なぜ、誰と」から始まり「心の中で返事を探しましょう。イエス様が神父さん、お父さん、お母さん、友だちを通してあなたに返事をします。ミサは感謝の祈り、神様との対話です。前半は聖書の朗読と説教、後半は『感謝の祭儀』でパンとぶどう酒をイエスの体と血に変えます」という「ミサについて」の講話を聴いた。続いて平田三好神父（武蔵ヶ丘主任）を主司式に熊本地区8人の神父で合同ミサが行われ、説教を担当した浦川務神父（崎津・本渡・大江教会主任）は「一番身近な周りの人のことを考え、皆

原因となったという。聖マリア病院は、新型コロナウイルスが世界に広がりに始めて間もない2020年4月に「コロナ病棟」を設けた。最初は「未知の感染症」だったため、当時のスタッフ全員が精神的な不安を抱えながら仕事を続けたという。通常の感染防止対策を強化して、患者やスタッフを守るために細心の注意を払った。それでも、病棟で感染が起これば、隔離された患者の一部は、院内での隔離の理由に戸惑い、隔離がいつ終わるか分からないという先の見えない状態が、患者にもスタッフにもストレスの原因となったという。



コロナ病棟で個人用防護具を身にまとう医療従事者

でもお互いの支えになるようにスタッフが頑張った」と話した。そして、今年の7月後半に第7波が襲ってきた。これまで経験したことのない強い感染力を持つオミクロン株の一種であるBA.5では、今度是对策を施す医療従事者にも感染が広がり、人員不足という新たな危機への対応をせざるを得なかったという。「普段は、別の病棟から人員の協力をもらっていたが、第7波のときにはすべての病棟で同じ人員不足になったため、なかなか難しかった」と、東島さんが振り返る。

新型コロナウイルスが襲来してほぼ3年が経ち、今や第7波を迎えている。久留米市の社会医療法人「雪の聖母会」聖マリア病院（谷口雅彦院長、1097床）は、新型コロナウイルス感染症の最前線で患者と向き合っている医療機関の一つ。その中で治療や療養に直接関わっている看護師たちの日々の悲喜こもごもを探った。

コロナ禍での
医療従事者の現状 前編

を笑顔にしましょう。午後の水遊びでも、皆で楽しさを分かち合うチャンスにしてください」と分りやすく語った。昼食では、参加者全員が車座に座って親しく歓談し、午後は近くの「じゃぶじゃぶ池」で、水をかけ合ったり、捕虫網で魚を捕ったりと、自然の中でひとときを満喫した。最後に櫻井尚明神父（手取教会主任）から「コロナ終息後は泊まりのキャンプに行きましよう。イエス様が神父さん、お父さん、お母さん、友だちを通してあなたに返事をします。ミサは感謝の祈り、神様との対話です。前半は聖書の朗読と説教、後半は『感謝の祭儀』でパンとぶどう酒をイエスの体と血に変えます」という「ミサについて」の講話を聴いた。続いて平田三好神父（武蔵ヶ丘主任）を主司式に熊本地区8人の神父で合同ミサが行われ、説教を担当した浦川務神父（崎津・本渡・大江教会主任）は「一番身近な周りの人のことを考え、皆

☆何を信じて生きるのか
片柳弘史（著）



BOOK
読み専科

コロナ禍で大学に通えず、ほとんどの時間を家で悶々と過ごしていた若者。学校へ続く道から目に入る、コンビニへ行く時も前を通る、ちよつと気になる建物。それは教会だった。彼を待つ運命は...。人と人生を比べてみじめな気持ちになる。他人を信用できず、好きになれない。そんな方に、絶望から一歩踏み出すドアのあり処を示す。「数ある教えや思想のなかで、キリスト教にもわりと目に見え、考え方がありと感じてもらえたら」(著者)。
P H P 研究所発行
税込価格1430円



コロナ禍でひっそりとした病院の現状を語る
看護師長・東島美由紀さん

FPC 福岡プライマリケア訪問看護ステーション

自宅で療養されている方、在宅で看取りたい方、精神障害の方など、病気について、介護方法について専門的指導や援助が必要な方はご相談ください。
費用は医療、介護保険でのご利用になります。

春日市天神山 7-91 TEL&FAX 092-517-6313
福岡プライマリケア株式会社 代表：エリザベト熊谷

社会医療法人 雪の聖母会



聖マリア病院
〒830-8543 福岡県久留米市津福本町422
TEL.0942(35)3322 FAX.0942(34)3115

聖マリアヘルスケアセンター
〒830-0047 福岡県久留米市津福本町448番5
TEL.0942(35)5522 FAX.0942(34)3306

信仰や理念を共有できる医師、看護師の皆さん
と一緒に働いてみませんか
URL: http://www.st-mary-med.or.jp/

広告掲載をご希望の方は
下記までお問い合わせください

福岡教区本部事務局 広報部
電話 : 092-522-4059
メール : cdf-kouhou@nifty.com

※この枠で1回（ひと月）5,000円の献金（目安）をお願いしております。
※内容によってはお断りさせていただく場合もございます。あらかじめご理解とご了承のほどをお願いいたします。

キリスト教書籍・用品
お買い物は365日、24時間 いつでもどうぞ！

http://www.paulus.jp

パウルスショップ



メディアによる福音宣教のために...

サンパウロ福岡宣教センター

10:00~18:00(月~土) / 日・祝日休業 / 地下鉄赤坂駅より徒歩3分 *駐車場完備
〒810-0042 福岡市中央区赤坂1-14-26 ☎092-721-2032 fax 739-3930

